

The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

May
ISSUE



May, 2020
Volume 102

Message from the Vice Head of Schools

【困難をもって益へと転ずる】

この困難な状況に人々の連携をもって立ち向かい、目に見えない脅威に打ち勝ち今後の益へと転ずる・・・

昨年のこの Learner5 月号では、令和という新しい元号の始まりと共に、PYP 認定校となった本校の新たな取り組みについて紹介いたしました。我々も含めて世の中全体が心躍る雰囲気にも包まれていた気がいたします。

転じて、2020 年の今は、緊急事態宣言が 5 月末まで延長され、人と人との 8 割の接触制限が推奨され、テレワーク、時差出勤、3 密の回避、等々、目には見えない脅威に対して、一人ひとりの自覚と社会の連帯が強く求められています。

同志社国際学院初等部でも、3 月から 4 月、そしてこの 5 月にかけて、臨時休業の措置をとり、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に対する感染拡大防止に取り組んで参りました。

在校生の皆さんにとっては、新しい学年となつての始業式も叶わず、また、今年から 1 年生になる新入生の皆さんにとっての入学式も（計画はしていたものの）緊急事態宣言の発出により実施することはできませんでした。正に断腸の思いでの 2020 年度の幕開けでした。

しかし、このような時勢であるからこそ、この状況をプラスの方向に転ずることができないか、将来への希望をもって考えを進めていくことが大切であるとも言えます。

我々の校祖新島襄は、血気盛んな青年期前半を（人並み以上の）多感な感性を持って、当時の江戸末期の世情の中で自らの道を模索していました。ペリーが浦賀に来たのが新島 10 歳の時、そして彼が実際に西洋の軍艦を見たのが 18 歳の時であったと彼自身の手記（ハーディーに送られた英文での手記）に記されています。長く続く江戸封建社会の形骸化されたしきたりの中で過ごすことに疑問を持つ新島は、西欧諸国への畏敬の念を抱くと共に日本を何とかしなければならぬという強い気持ちを抱くようになります。しかし、封建社会の中でたとえ武士といえども藩内における（武士としての）身分や役職が決まっており、自由に自分の希望を叶えることはできませんでした。そんな折、新島は病に倒れ、約 3 か月間床に臥すこととなります。ところが新島はこの間、虚無感に服してしまうどころか、将来への希望を尚一層高め、病床の中で（いえ、病の身であったからこそ、藩の役目から解放され）これまで学ぶことができなかった、オランダ語で書かれた算術書（代数）を読み始め、多くの学びを修めたのでした。

新約聖書ローマ書の中に次のような言葉があります。

「現在の苦しみは、将来の私たちに現わされるはずの栄光に比べると取るに足らないと私は知っている。」（8 章 19 節）そして、「すべてのことが相働いて益へと変えられる。」（28 節）へとつながります。

18 歳の新島が病に倒れながらも将来への希望を強く持ち、その状況を益に転じたように、どんな状況に置かれても、我々は希望をもって、次への道を進んでいきたいと思えます。

【オンライン授業への対応】

4 月 13 日から始まったオンライン授業は、ブラッシュアップしながら 5 月も継続して取り組んで参ります。そして 5 月下旬には、Zoom というアプリを使ったリアルタイムでの双方向でのやり取り（まずは短時間での朝の会のようなやり取り）ができるように準備を進めて参ります。こんな時勢ではありますが、我々は新しい教育の可能性を探究していくと共に希望をもって進んでいく所存です。またこれらの取り組みは春学期での学びの評価にも何らかの形で反映されることにもなります。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

副校長 城 恵市



キリスト教 教育テーマ 5月：尊敬 May: Respect

「真理から出た者は皆、私の声を聞く。」

ヨハネによる福音書 18章 37節 (聖書協会共同訳)

病弱だった幼少時、頻りに病院のお世話になった私にとって、医師や看護師など白衣を着て働く人々の存在は、ひと際眩しいものでした。5月に入ってオンライン授業の教案を考えていた時、ふと、昔旅行でロンドンを通じた際、聖トーマス病院に併設された「ナイチンゲール博物館」を訪れたことを思い出し、「そうだ、今の時期だからこそ、彼女の生涯を取り上げよう。」と、決めたのです。教案を仕上げたその日に偶然知ったのが、今年がナイチンゲール生誕200年という記念すべき年であり、さらに彼女の誕生日である5月12日が「看護の日」と制定されてから30周年を迎えている、という事実でした。

フローレンス・ナイチンゲール (Florence Nightingale) は1820年、イギリスの上流階級の家にも生まれました。家族は父、母、姉、そしてフローレンスの4人でした。当時イギリスの上流階級と言え、一生働かずとも何不自由なく生きていける身分の人々であり、フローレンスの母親は娘達が年頃になると彼女らを社交界にデビューさせ、良い縁談ができることのみを力を注ぎました。一方で父親は少し進んだ教育観を持っており、娘達に様々な学問を身につけさせました。文法、作文、歴史、数学、音楽、幾つもの外国語(姉妹ともに読み書き、話しができたそうです。)や、聖書や哲学を学ぶ基礎となるラテン語、ギリシア語などです。勤勉なフローレンスは何でもよく学び吸収したので、教養溢れる聡明な少女に成長していきました。フローレンスが17歳の時、彼女は神が自分を何かの奉仕に召し出そうとしておられることをはっきりと感じ取りますが、それが何なのか、具体的にはわからないままでした。それがわかったのは13年後、フローレンスが30歳になった時でした。「私は30歳、キリストがその任務を開始された年齢である。もはや子供じみたこと、空しいことは致すまい。恋愛も、結婚も。今、主よ、我を汝の御心にのみ、向かわせ給え。」(F・ナイチンゲールの日記より、1850年) 貧しさや病気で苦しんでいる人を助けるため、病院で働くという決意は既に何年も前からフローレンスの胸の内にありましたが、家族の大反対にあって表向きには実行できず、彼女は密かに衛生について学んだり、ドイツの病院を訪問して実務経験を積んだりしました。そして遂に33歳の時にパリの病院で看護を学び、翌年にはロンドンの病院の立て直しに協力できるほどの実力を身に付けていたのです。1854年、フローレンスは当時の戦時大臣より、看護師の集団を率いてクリミア戦争に参加しているイギリス軍の病院に行くよう命じられ、トルコのスクタリに向かいます。そこで二年間負傷兵達の看護に奮闘し、終戦後イギリスへ帰国します。途中何度も自身が病に倒れ、帰国後も働き過ぎで体を壊し、とうとう41歳の時には、その後90歳で亡くなるまで歩行できないような健康状態に追い込まれてしまうのです。それにも拘らず、クリミア戦争での経験を生かした彼女の病院改革には目を見張るものがあり、世界で初めて、専門性を備えた看護師を養成する学校を創設しました。現代に通じる看護学の基礎は、全てフローレンス・ナイチンゲールが体系化したものだそうです。病院建築の考案や統計学を用いた看護理論など、その膨大な著作は200点にも及び、つくづく若き日の基礎学力の大切さを思わされます。

命を懸けて病気の患者を守り続けたナイチンゲール本人にも、そしてその偉業を代々受け継いでいる現代のナイチンゲールさん達にも、改めて深い敬意を表します。

Christian Education Committee チャプレン 石川真弓

<参考文献>

“Florence Nightingale Museum Guidebook” The Florence Nightingale Museum Trust, 1997&2001
「学習まんが人物館 ナイチンゲール」小学館 2004年版

1856年撮影

1886年撮影

(下イラスト：看護師の戴帽式では、一人一人がナイチンゲール像より灯を受け継いでいく。)



新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる対応について

同志社国際学院初等部の対応 2

◇感染拡大収束にむけて 一緊急事態宣言延長を受けー

新型コロナウイルス感染拡大防止に関わり、本校は臨時休業期間を延長することとなりました。

GW 期間中、stay home というスローガンの下、接触割合を削減する取り組みが継続され、徐々にではありますが感染者数の数も減少傾向に転じてきています。しかし、このウイルスは、感染拡大を少なくしていくという意味での収束に向かう事ができても、完全に感染がなくなる=終息=を望むのは難しいのではとされています。私たちはこれまで通り、細心の注意を払いながら社会生活を再開させる必要があります。緊急事態宣言の延長に際して、いくつかの社会生活における行動指針も提示されましたので、その方針に従い、本校の対応を考えていきたいと思います。

皆様方におかれましては、ご自身の健康に十分ご留意いただくと共に外出を控え、他者との接触を極力なくすよう、引き続き取り組んでいただきますようお願いいたします。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- 遊びに行くなら屋外より屋外を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用
- 家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際は、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 乗車や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 □ 咳エチケットの徹底 □ こまめに換気
- 身体的距離の確保 □ 「3密」の回避（密着、密接、密閉）
- 毎朝体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて早く済ませ
- サンプルなど展示品への接触は控える
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 近い距離での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離がオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出勤、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大口は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお箸口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 □ 時差通勤でゆったりと □ オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン □ 名刺交換はオンライン □ 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成予定

5月の主な行事・予定

1	金	
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	臨時休業延長（～5/31まで） オンライン授業 第4週
8	金	
9	土	
10	日	
11	月	オンライン授業 第5週
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	オンライン授業 第6週
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	オンライン授業 第7週 Zoomトライアル
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

6月の主な行事・予定とお願い

6月1日(月)学校再開予定

以降の6月行事については、今後の状況を見据え、決定したことを保護者文書としてHP上にアップしていきます。その際は、ミマモルメにて皆様にお知らせいたします。